

今回は、末吉町憶地区でさつまいも・大根を栽培している薄窪剛志さんに話を伺ってきました。

家業である農家を継ぐために鹿屋農業高校・鹿児島県立農業大学校で学びました。その後、流通を学ぶため愛知県の市場で青果の卸売を行う会社に入社。平成18年に実家の後継者として就農しました。

現在は両親・奥さんと4名で焼酎用さつまいも16畝、漬物用大根2.5畝などを栽培しています。日ごとに出荷量が決められている計画出荷を行い、さつまいもは1日に5〜10トン出荷しています。元々はたばこの栽培も行っており、令和3年にさつまいもに転換。曾於市最後の一軒になっても栽培し続けた、たばこ農家でした。

令和5年にはプロジェクト発表に取り組んだ薄窪さん。テーマは「さつまいもの採苗作業における負担軽減の検討」。鹿児島県青年農業者会議では最優秀賞を受賞。採苗とは苗を育てた苗床から苗を一本ずつ切り取り、数本ごとに束ねる植え付け前の準備。機械化が難しく、さつまいも栽培のなかで一番大変な作業と言われています。

「今までで正座で行っていた採苗ですが、苗床の高さを10センチから30センチ高くすることで、椅子に座りながら作業ができるようになり負担軽減できました」

それでも苗が密集してしまうことや、採取できる苗が少なくなるといった課題があり、まだまだ研究中と話します。

「今までと同じことをしてはダメ。違う何かをしないといけない」とその何かを模索している薄窪さんは、ロボットやAIを活用するスマート農業として自動操縦トラクターを新しく導入。マルチシートを自動で張れるようになり、今まで二人でしていた作業が一人で出来るようになったそう。

また農業委員会の農地利用最適化推進委員としても活動しています。「農地の貸し借りや農地の集約化など権利に関わる重大で責任のある仕事です」農地パトロール（利用状況調査）では担当する憶地区を巡回し、農地の現状を把握しています。

さらには南之郷猟友会としても活動。「目の前で被害が出ているのに何もできないのが悔しくて、自分で捕まえるしかないと思ったんです」

「わな猟免許と銃猟免許の両方の免許を取得し、畑を被害から守っています。今の一番の楽しみは二人のお子さんの成長と話す薄窪さん。」

「子ども達はそれぞれ部活動をしているので土・日曜日は休めるように家族で協力しながら営農しています」

農地利用最適化推進委員や猟友会として積極的に地域と関わりながら、農作業の改善やスマート農業の導入で家族との時間を大切にされている薄窪さんでした。

第99回 実は隣のスゴイ人

さつまいも・大根 農家

うすくぼ たけし
薄窪 剛志さん

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、山口智紀さんにご紹介いただいたこの方は「地域の若手農業者を引っ張るスゴイ人」とのこと。



奥さんやご両親と協力しながら経営しています

